

| | | | | | | |
|--------------------|---|--|----|---------------|--------|------------|
| 科目名 Course Name | ピアノ演奏法 I Piano performance method I | | | ナンバリング No. | K1-011 | |
| 年次 | 1年 | 期別 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 演習 |
| 担当者氏名 | 岡泉志のぶ・川田将人・中沢充恵・山田飛鳥・川島麻祐未 | | | | | |
| 連絡方法 | C-Learning で対応。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(保育士養成課程選択必修) | | | | | |
| 関連 DP | DP2, DP4, DP5 | | | | | |
| 授業の概要と 到達目標 | <p>子どもの幼児期の成長過程における音楽教育は非常に重要であり、多くの保育園、幼稚園で音楽は生活全般に取り入れられている。この授業では、保育の現場で必要な基礎的なピアノ奏法、テクニック、伴奏法の習得を目標として、ピアノ未経験者や初心者もバイエル教則本を使用し、それぞれのレベルに合わせた指導を個人レッスン形式で行う。また個々の進度に合わせた課題を与えることにより、子ども達に音楽的な表現を豊かにする指導が出来るようになるためのピアノ基礎技術の習得を図る。</p> <p>この授業の到達目標は以下4つである。</p> <p>①保育現場にピアノ技術は必須であるという意識を持ち、ピアノの練習を習慣化できるようにする。 ②音楽に関心を持ち、ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようにする。 ③音楽の基礎理論(音符や休符、リズム、拍子など)を覚えて、幼児曲を伴奏できるようにする。 ④授業内容に沿って、バイエル教則本 70 番台の曲を終了できるようにする。</p> | | | | | |
| 授業の方法 | <p>演習(実技)科目であり、個別指導を基本として個人レッスン形式で行う。初心者クラスの学生(事前調査により判断、入れ替えあり)は個人レッスンに加えて楽典講座を受講する。</p> <p>授業では各学生の能力に応じた教材や進度を的確に判断し、グループ演奏発表及び動画提出も含め個々に適した以下の授業内容と方法で進めることとする。</p> <p>以下には標準的(ピアノ未経験者、初心者に適した)授業計画を示す。</p> | | | | | |
| 学習成果 | L01 | ピアノ練習の習慣化を身につけ、ピアノを弾くことの楽しさや達成感を得ることができる。 | | | | |
| | L02 | ピアノの基本である読譜力をつけることができる。 基本的な伴奏法を用いた簡単な幼児曲の伴奏や他の楽曲を演奏することができる。 | | | | |
| | L03 | | | | | |
| | L04 | | | | | |
| 課題に対する フィードバック | <p>個々の学生のレベルに応じて課した技術的課題について、毎回授業内でフィードバックする。</p> <p>発表については、終了時と最終授業日に講評する。</p> | | | | | |
| 教科書/ 参考図書 | <p>テキスト:全訳バイエル教則本(全音楽譜出版社)、ブルグミュラー25の練習曲(全音楽譜出版社) ソナチネアルバム、(全音楽譜出版社)、ソナタアルバム(全音楽譜出版社)、他</p> <p>C-learning: 楽曲解説、解説動画、ドリル</p> | | | | | |
| 履修上の留意点 やルール等 | <p>●短い時間でも毎日ピアノに触れ練習すること。●使用教室への飲食持ち込みは禁止とする。</p> <p>●事前、事後学習に費やす時間は45分とする。</p> | | | | | |
| 担当教員の実務 経験 | <p>●担当教員(非常勤講師)職種:ピアノ講師 職歴:10年以上</p> <p>ピアノ講師としての実務経験を、学生が保育の現場で必要なピアノ演奏技術の習得に活かす。</p> | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 毎回与えられた課題を日々練習して授業に臨んでいる。 | 30 | | | |
| レポート/作品 | | | | | |
| 発表 | 演奏発表:各自課題曲の難易度を含め、表現力と技術を評価する。(40点) 演奏動画の提出:各自課題曲を指導に沿って的確に演奏することで最高水準とする。(10点) | | 50 | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | | | | | |
| その他 | 曲の進度による評価をする。初心者でもバイエル 70 番程度を弾くこと。 | | 20 | | |
| 合計 | | 30 | 70 | | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | 授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当別：教材の選定と課題提示 |
| | 事前・事後学習 | 各自与えられた課題と練習方法を理解して練習する。また、生活の中でピアノを弾く時間を確保できるように今後のプランを立てる。 |
| 2 | 授業内容 | 音符と休符の種類(バイエル 10～30 番台) |
| | 事前・事後学習 | 音符と休符について復習する。 ドリル① |
| 3 | 授業内容 | 音符と奏法 リズムと拍子(バイエル 10～30 番台) 動画提出について |
| | 事前・事後学習 | へ音記号の楽譜について復習する。 ドリル② |
| 4 | 授業内容 | 運指について 両手の奏法(バイエル 40 番台) |
| | 事前・事後学習 | レガートで弾くための運指を守り、楽譜通りに練習する。 ドリル③ 発表課題：課題曲の動画提出 |
| 5 | 授業内容 | ハ長調の理解と各曲の習得① 楽譜の確認(バイエル 40～50 番台) |
| | 事前・事後学習 | ハ長調について復習する。 ドリル④ |
| 6 | 授業内容 | ハ長調の理解と各曲の習得② リズムと拍子(バイエル 40 番～50 番台) |
| | 事前・事後学習 | ハ長調の左手伴奏パターンを練習する。 ドリル⑤ |
| 7 | 授業内容 | これまでの振り返りと今後の計画 |
| | 事前・事後学習 | 各自の課題を受け入れ、注意点を意識して練習する。 ドリル⑥ |
| 8 | 授業内容 | 長調と短調(バイエル 50～60 番台) |
| | 事前・事後学習 | ドリル⑦ |
| 9 | 授業内容 | 調性について 各曲の習得(バイエル 60～70 番台、他) ト長調 |
| | 事前・事後学習 | ドリル⑧ |
| 10 | 授業内容 | 各曲の習得(バイエル 70 番台、他) |
| | 事前・事後学習 | ＃調号の意味を復習する。 ドリル⑨ |
| 11 | 授業内容 | 各曲の習得(バイエル 70 番台、他) |
| | 事前・事後学習 | 調号に注意して課題曲の練習をする。 ドリル⑩ |
| 12 | 授業内容 | 実技発表の課題曲の指導① 楽譜の確認(バイエル 77 番以上) |
| | 事前・事後学習 | 各自、課題曲の指導されたポイントに留意して練習する。 ドリル⑪ |
| 13 | 授業内容 | 実技発表の課題曲の指導② |
| | 事前・事後学習 | 楽曲の完成と暗譜 発表課題：課題曲の動画提出 |
| 14 | 授業内容 | 実技発表と今後の計画 |
| | 事前・事後学習 | 実技発表の復習と新たな課題楽曲に取り組む |
| 15 | 授業内容 | 今後の計画立案とその指導 |
| | 事前・事後学習 | 夏季休暇中の課題について整理し、練習する。 |